

Можно の助詞的用法のコーパス分析 — 副詞的用法との比較から —

東 出 朋

はじめに

можно は、通常副詞に分類され、可能性や許可の意味を表す。¹ 無人称文で述語として用いられる際、動詞の不定形を伴い、動詞の意味上の主体は与格で標示される。

- (1) Ты генерал, тебе можно пить водку.²

しかし、一般的な辞書に記述の少ない用法として、можно が疑問を表す助詞として用いられることがある。(2)はロシアの現代映画の 1 場面で用いられたセリフである。ここでは、動詞の意味上の主体は主格で標示されており、動詞はその主格と呼応している。つまり、この文は主格主語とそれと呼応する動詞の述語からなる人称文である。

- (2) Можно я позвоню? [Брат-2, к/ф (2000)]

その他の例を見てみよう。(3)は本のタイトル、³ (4)はインターネット上の掲示板に書き込まれた質問⁴ である。(2)~(4)から分かるように、можно は一人称単数主格 я と共起する。

- (3) Можно я побуду счастливой?

- (4) НУЖНА ЛИ ЗАПЯТАЯ В СЛЕДУЮЩЕМ КОНТЕКСТЕ:

¹ Словарь русского языка (МАС) [<http://feb-web.ru/feb/mas/mas-abc/default.asp>] 及び Большой толковый словарь русского языка [<http://gramota.ru/slovari/dic/?word=%D0%BC%D0%BE%D0%B6%D0%BD%D0%BE&all=x>] (2019 年 9 月 26 日閲覧).

² 以後、特に表記がない場合はコーパス Национальный корпус русского языка からの引用である。必要に応じて下線を付す。表記はママ。

³ Мария Метлицкая, 2016 [<https://mybook.ru/author/mariya-metlickaya/mozhno-ya-pobudu-schastlivoj/>] (2019 年 9 月 26 日閲覧).

⁴ [<https://www.russkiymir.ru/education2/services/ask/152267/>] (2019 年 9 月 26 日閲覧).

"МОЖНО(,) Я ПОЙДУ В КИНО"?

この用法については、80 年文法の疑問助詞の項目の注釈において、未来時制の文の最初に置かれ許可を尋ねる用法があるとわずかに言及されている。

- (5) Функцию вопросительной частицы выполняет слово *можно*, открывающее собой вопросительное предложение в форме буд. вр. (вопрос о разрешении):
Можно — я доски возьму? (Плат.); *Можно я одно замечание сделаю?* (Шукш.).⁵

また、2 つの露和辞典⁶ の *можно* の項目にも若干の記述がある。そこでは「文副詞」、
「文に伴い相手の意向を問う」と説明され、話し言葉で用いられることが指摘されている。

можно を用いた許可を尋ねる疑問文には 2 つの形式がある。(6)は *можно* が無人称の疑問文における述語副詞として用いられている用法、(7)は *можно* が人称文で助詞のように用いられている用法である。便宜上、前者を副詞的用法、後者を助詞的用法と呼ぶ。

- (6) Можно мне своё мнение сказать?
(7) Сейчас можно я скажу?

これを簡略化して示したものが(8)である。ロシア語は語順の入替が可能のため、*можно* と人称代名詞、動詞の語順はそれぞれ 2 通りのパターンがある。⁷

- (8) a. *можно* + Dat + Vinf / Dat + *можно* + Vinf
 b. *можно* + Nom + Vfut / Nom + *можно* + Vfut

можно の助詞的用法に関する記述は、80 年文法の注釈以外、ほばない。そこで本稿は、*можно* の助詞的用法について、その統語的環境をコーパスを利用して記述し、助

⁵ Шведова Н. Ю. (гл. ред.) Русская грамматика. М., 1980. Т. 2. С. 388. イタリアンママ。

⁶ 中澤英彦他(編)『プログレッシブ ロシア語辞典』小学館, 2015 年; 東郷正延他(編)『研究社露和辞典 机上版』研究社, 1988 年。

⁷ 3 つの要素の順列の組み合わせは理論的には 6 通りあるが、本稿では、副詞的用法において無標と考えられる 2 通りと、それに対応する助詞的用法を分析することとする。

詞的用法の **можно** が近年のロシア語においても発達過程にある形式であることを示す。

1. **можно** の品詞的、統語的位置づけ

можно は、品詞としては通常副詞に分類され、副詞の中でも特殊な述語 (Предикативы) とされる。この述語は義務、必要性、可能性のモダリティ的意味を伴う独立語で、統語的には一要素文の主要成分として述部になる要素である。⁸

他方、品詞としての助詞は、統語構造上の必須要素として特徴づけ得ない非自立語で、発話内容や話し相手に対する話し手の様々な態度を示す要素とされる。⁹ 助詞はその構造から本来的な助詞 (ну, же など主として一音節) と派生的な助詞に分かれ、後者は主に接続詞、副詞、代名詞、モダリティを表す語から派生する。したがって、助詞は構造的及び機能的に副詞や接続詞、感動詞、挿入句と似ており、厳密に区別することが困難である。¹⁰ スタラドゥーモヴァはロシア語の助詞の一覧を示しているが、そこに **можно** は載せられていない。¹¹ 疑問助詞をはじめとした助詞一般に関する研究は数多いが、**можно** を助詞やディスコースマーカーとして扱ったものは、(5)で示した 80 年文法の記述以外見られなかった。

2. データ及び分析手順

можно の助詞的用法の統語的環境を明らかにする際、コーパスは量的根拠を示すことができる言語資料であり、また、その語の使用の変遷を示すことができる有効な手段である。本稿で扱う **можно** の用法は話し言葉の特徴とされる¹² が、ロシア語の大規模な話し言葉コーパスはまだ存在しないため、本稿の分析には Национальный корпус русского языка¹³ (以後 НКРЯ) を採用する。これは、1701 年から現在までの様々な媒体から収集した言語データが収録されており、ロシア語の全体像を把握できるように構築された大規模な均衡コーパスである。コーパスは幾つかの下位コーパスで構成され、最も多くを占めるのは現代ロシア語で書かれたテキストからなるメイン

⁸ Шведова. Русская грамматика. С. 703.

⁹ Стародумова Е. А. Русские частицы: Учебное пособие. Владивосток, 1997. С. 3-4.

¹⁰ Шведова. Русская грамматика. С. 722-723, 729-730.

¹¹ Стародумова. Русские частицы: Учебное пособие. С. 68.

¹² Крылова О. А. Об одном из приемов стилистической работы на продвинутом этапе обучения //Русский язык за рубежом. №1(5). 1968. С. 35.

¹³ [http://www.ruscorpora.ru/index.html]

コーパス(57.3%)で、約 2 億語が収録されている。¹⁴

助詞的用法の分析にあたっては、副詞的用法との違いも理解する必要がある。そこで、次のような分析手順を踏む。まず、**можно** の助詞的用法と副詞的用法について НКРЯ から以下の検索条件で対象を抽出する。

(9) 検索条件

- a. **можно** と人称代名詞の 2 語の間隔が隣接している。
- b. 人称代名詞主格が動詞の意味上の主体となるもの、つまり **можно** と **я, ты, он, она, оно, мы, вы, они** の組み合わせ。かつ、**можно я** と **я можно** のように、語順の前後の組み合わせ。
- c. 人称代名詞与格が動詞の意味上の主体となるもの、つまり **можно** と **мне, тебе, ему, ей, нам, вам, им** の組み合わせ。かつ、**можно мне** と **мне можно** のように、語順の前後の組み合わせ。

можно と人称代名詞の前後のバリエーションについて、便宜上、それぞれ 1, 2 と名付ける。(9b)は 16 通り、(9c)は 14 通り、計 30 通りの対象を抽出する。なお、普通名詞や固有名も **можно** の述部の動作主となり得るが、本稿では人称代名詞に限定して分析する。それは、第一に、(2)~(4)で見た通り、助詞的用法では人称代名詞との共起が多いと予測されるため、第二に、コーパスで普通名詞や固有名詞を指定して検索できないためである。この抽出作業を「作業 1」とする。

次に、データ整理を行う。(9)の条件で抽出されたデータには、人称代名詞が **можно** 及び動詞の不定形と直接結びつかない例が混在する。(10)は動詞 **задать** の間接目的語としての人称代名詞、(11)は前置詞 **к** と共起する人称代名詞である。(12)では人称代名詞が単独で文をなしており、(13)では人称代名詞が別の文の要素である。これらの 2 語は単に連続しているだけである。

- (10) Антон Павлович, можно вам задать один вопрос...
- (11) Привет, чудик! К тебе можно?
- (12) Это ты, Serge? — Я. Можно войти?
- (13) тебя за машинку взять можно, я есть действительный солдат с австрийского фронта.

¹⁴ コーパスの詳細やデータの内訳は以下を参照されたい。[<http://www.ruscorpora.ru/corpora-stat.html>]

このように, **можно** の助詞的用法及び副詞的用法と関係ないものを手作業で除外する。この選別作業を「作業 2」とする。

最後に, 副詞的用法の下位分類を行う。助詞的用法は, 80 年文法によると許可の疑問文でしか用いられないが, 副詞的用法については疑問文か否か, さらに真偽疑問文か否かを下位分類する必要がある。(14)は疑問文ではなく平叙文である。(15)と(16)は, 疑問文ではあるものの疑問の焦点は **можно** ではなく, それぞれ間接疑問文と疑問詞疑問文であり, 許可を求めているわけではない。

(14) Мне можно было оставаться только до выноса.

(15) Я надеюсь, деньги мне можно получить?

(16) И как же можно тебе тогда сопротивляться?..

この分類作業を「作業 3」とする。¹⁵ 作業 1~3 を経て得られた例を対象として分析を行った。

3. 分析

3-1 では助詞的用法と副詞的用法の全体的傾向を対照する。3-2 では助詞的用法の統語的特徴を具体例を通じて分析する。

3-1. 助詞的用法と副詞的用法の全体的傾向

まず, 作業 2 で選別された助詞的用法及び副詞的用法の用例数をそれぞれ表 1 と表 2 に示す。

¹⁵ 作業 2 及び作業 3 の作業は母語話者のチェックを受けている。

表 1 **можно** の助詞的用法

	検索文字列	数
助詞的用法 一	можно я	<u>760 (93.83%)</u>
	можно ты	2 (0.25%)
	можно он	4 (0.49%)
	можно она	1 (0.12%)
	можно оно	0 (0.00%)
	можно мы	39 (4.81%)
	можно вы	2 (0.25%)
	можно они	0 (0.00%)
助詞的用法 二	я можно	1 (0.12%)
	ты можно	0 (0.00%)
	он можно	0 (0.00%)
	она можно	0 (0.00%)
	оно можно	0 (0.00%)
	мы можно	1 (0.12%)
	вы можно	0 (0.00%)
	они можно	0 (0.00%)
	合計	810 (100.00%)

表 2 **можно** の副詞的用法

	検索文字列	数
副詞的用法 一	можно мне	<u>390 (28.78%)</u>
	можно тебе	14 (1.03%)
	можно ему	38 (2.80%)
	можно ей	17 (1.25%)
	можно нам	57 (4.21%)
	можно вам	24 (1.77%)
	можно им	27 (1.99%)
副詞的用法 二	мне можно	<u>316 (23.32%)</u>
	тебе можно	49 (3.62%)
	ему можно	114 (8.41%)
	ей можно	65 (4.80%)
	нам можно	90 (6.64%)
	вам можно	69 (5.09%)
	им можно	85 (6.27%)
	合計	1355 (100.00%)

助詞的用法を示した表 1 からは、まず人称について、助詞的用法 1 は一人称（ほぼ **я**、まれに **мы**）との共起が圧倒的に多いことが分かる。つまり、共起する人称代名詞に制約がある。次に語順について、**можно** + Nom は使用可能だが Nom + **можно** は使われないことが分かる。つまり、語順に制約がある。

副詞的用法を示した表 2 からは、まず人称について、副詞的用法は全ての人称で用いられることが見てとれる。つまり、人称に制約がない。とはいえ、一人称が全体の約 50% を占める。次に語順について、**можно** + Dat も Dat + **можно** も両方用いられている。つまり、語順に制約がない。

次に、副詞的用法における語順と真偽疑問文の関係について、作業 3 の分類結果を表 3 に示す。表 3 をカイ二乗検定した結果、真偽疑問文の頻度は副詞的用法 1 と副詞的用法 2 において有意水準 5% で差があった。真偽疑問文では、副詞的用法 1 のほうが副詞的用法 2 より多く用いられていると言える。

表 3 副詞的用法 1 と副詞的
用法 2 の真偽疑問文

	真偽 疑問文	その他	総数
副詞的用法 1	374	193	567
副詞的用法 2	136	652	788
合計	510	845	1355

$$(\chi^2 = 331.141, df = 1, p < .01)$$

表 4 副詞的用法における人称ごとの真偽疑問文

	検索文字列	真偽疑問文	その他	総数
副詞的用法 1	можно мне	323	67	390
	можно тебе	1	13	14
	можно ему	11	27	38
	можно ей	5	12	17
	можно нам	27	30	57
	можно вам	2	22	24
	можно им	5	22	27
副詞的用法 2	мне можно	102	215	316
	тебе можно	7	42	49
	ему можно	2	112	114
	ей можно	0	65	65
	нам можно	14	76	90
	вам можно	10	59	69
	им можно	2	83	85
	合計	510	845	1355

$$(\chi^2 = 558.769, df = 13, p < .01)$$

さらに、副詞的用法における人称ごとの真偽疑問文の内訳を表 4 に示す。表 4 をカイ二乗検定した結果、真偽疑問文の頻度は副詞的用法の人称のバリエーション全 14 通りにおいて有意水準 5% で差があった。¹⁶ 副詞的用法の全ての人称のうち、副詞的用法 1 の一人称が最も真偽疑問文になりやすい、つまり、можно мне ~? という形式が最も使用頻度が高いと言える。

また、一人称に関しては、можно мне ~? が 323 件（表 3）、можно я が 760 件（表 1）であることから、許可の疑問文として用いられるのは助詞的用法 можно я が 2 倍以上多い。

以上の結果をまとめると、次の 4 点が指摘できる。

- (17) a. 副詞としての можно は語順、人称、文の種類という点で統語的に様々な環境

¹⁶ また、正確確率検定においても、真偽疑問文[+/-]と人称の間に相関があることが認められた ($p = 0.000$ Fisher 正確検定による)。

で用いられるが、その中でも一人称真偽疑問文 **можно мне** ~? という形式が有意に多い。

b. 一人称単数との共起が顕著な、助詞的用法による疑問文 **можно я** ~? も並行して存在している。

c. 一人称単数においては、副詞的用法 **можно мне** ~? より助詞的用法 **можно я** ~? のほうが許可の質問として使用数が多い。

d. 統語的に様々な環境で用いられる副詞的用法の **можно** に対して、助詞的用法は一人称真偽疑問文の役割を専門的に担っている。

3-2. 助詞的用法の分析

本節では、助詞的用法の統語的特徴を分析する。3-2-1 で人称代名詞及び否定辞との共起について、3-2-2 で **можно** の疑問文について、3-2-3 で **можно** の出現する位置について、具体例を観察しながら分析する。

3-2-1. **можно** と人称代名詞及び否定辞の共起

можно の助詞的用法 1 は一人称単数との共起が圧倒的に多いが、実際は他の人称・性・数との共起も可能である（表 1）。また、否定辞とも共起する。

まず、НКРЯ から抽出された例を挙げる。(18)は一人称単数／肯定、(19)は一人称単数／否定、(20)は二人称単数／肯定、(21)は二人称単数／否定、(22)は三人称単数男性／肯定、(23)は三人称単数女性／肯定、(24)は一人称複数／肯定、(25)は二人称複数／肯定の例である。

- (18) Можно, я схожу в туалет?
- (19) Можно, я не пойду сегодня в школу?
- (20) можно, ты возьмешь у меня денег?
- (21) Можно ты не будешь забирать дом?
- (22) Мамочка, можно, он у нас поживет? В память о Роме и дяде Леве?
- (23) Можно, она домой пойдёт?
- (24) Наташа, можно мы под эту закуску, так и быть, откроем бутылку?
- (25) А можно вы нас будете учить рисовать в журнале «Трамвай».

なお、НКРЯ からは抽出されなかったが、全ての人称が **можно** と共起可能である。以下は

作例である。¹⁷ (26)は三人称単数男性／否定, (27)は三人称単数女性／否定, (28)と(29)は三人称単数中性の肯定と否定, (30)は一人称複数／否定, (31)は二人称複数／否定, (32)と(33)は三人称複数の肯定と否定である。

- (26) Можно он не будет с вами встречаться?
- (27) Можно она не поедет обратно в Москву?
- (28) (Говоря о животном) Можно оно будет жить с нами?
- (29) (Говоря о ребенке) Можно оно не будет так громко рыдать?
- (30) Можно мы не будем есть этот пропавший торт?
- (31) Можно вы не будете ставить мне пропуск за вчерашний день?
- (32) Можно они останутся у нас ночевать?
- (33) Можно они не пойдут с нами в поход?

次に, НКРЯ から抽出された助詞的用法 2 の 2 つの例を見てみよう。(34)は一人称単数, (35)は一人称複数である。

- (34) А я можно сошпаргалю "слушай меня и будем вместе в тюрьме" :)]
- (35) — А мы, — еще пуще оробел мужик. — Мы, можно, тетенька, следующую подождем? — А следующая, племянничек, — ехидно сказала баба, — будет утром, следующая ваша электричка до Кубековой.

(34)はチャットでのやりとりで, (35)は短編作品内での会話である。母語話者によると, 2 例とも「言えるかもしれないけれどもあまり言わない」「耳障り」な言い方とのことで, 言い間違えに近い表現の可能性がある。また, 発話は必ずしも流暢になされるわけではなく, 言いよどんだり, 途中で修正したりすることもある。(35)で話し手は「一層激しくおびえて("еще пуще оробел")」おり, 作者がそのような緊張感や恐怖感を表現するために普通と異なる語順を使った可能性も否定できない。

助詞的用法における **можно** は, 理論的には全ての人称・数・性及び否定辞と共に起することができるが, 表 1 の結果からも分かるように, 実例は極めて少ない。一人称単数かつ肯定での疑問文が圧倒的に多いという事実は, 「許可を求める」という発話行為の機能自体の特徴と関係すると考えられる。しかし, 許可求めという機能自体の問題及びその語用論的分析は本稿の課題を大きく超えるため別稿に譲る。

¹⁷ 作例は母語話者のチェックを受けている。

3-2-2. можно と疑問

(5)で示したように、80年文法によると можно は許可を尋ねる疑問文の文頭に置かれるとされる。本節では、можно による疑問文について観察する。

疑問文であるかどうかは、疑問符の有無によって判断することができる。助詞的用法の全810件(表1)のほとんどが疑問符を伴い、そのうち疑問符がないものは40件であった。しかし、(36)(37)のように、疑問符がなくても文脈から許可を尋ねる疑問文だと理解できる例もある。

(36) Мама, — вдруг сказала Ксения — можно я с Алексеем пойду вечером на дискотеку.

(37) Можно я вас поцелую. Роза?

80年文法に記されているように、можно が疑問文のマーカーである場合、疑問のスコープの問題がある。(38)では疑問符が文末に置かれていることから、можно による疑問のスコープは従属節 как の中の引用の最後までとなる。

(38) — Можно, я снова прочту тебе, как Баярдо увидел Анхелу и сказал: “Когда я проснусь, напомните мне, что я женюсь вон на той девушке!”?

それに対して、次の(39)では можно の疑問のスコープがどこまでなのか判断できない。疑問符は、(38)と同様に、発話末の語 ладно の後ろに置かれている。しかし、можно の疑問のスコープが я вам скажу два слова という文末までなのか、я пойду домой という文末までなのか、ひいては ладно まで含むのか、判断できない。

(39) Можно, я вам скажу два слова, а потом вы останетесь здесь, а я пойду домой, ладно?

しかし、(38)(39)ともに疑問符が置かれているという事実から、話し手(書き手)は можно によって疑問を開始した、とは言えるだろう。

また、(40)も文末に疑問符が置かれていない。これはインタビュー内のやりとりで、можно を含む一文は非常に長い。発話者 B は、インタビュー相手 A が提示した「主張に戻ってもいいか」と、можно によって発話を開始した。しかし、主張の内容説明が長くなるとともに、自然と平叙文へと移行してしまったように見受けられる。母語話者によると、この文は一文が長すぎるため文末に疑問符が置かれると不自然である。この発話は、前半

の「あなたの主張に戻ってもいいか」という許可求めの疑問文と、後半の主張説明の陳述文という、事実上 2 文から構成されるものと推測され、疑問符がなくても前半は疑問文として解釈されていると考えられる。

(40) A: Каким-то образом обозначить на своем языке, этот язык должен присутствовать как язык к этому моменту. Но возможность приобрести свой язык не увеличилась с появлением сети.

B: Можно я вернусь к вашему тезису о том, что еще не нашелся субъект, который собрал действительно информационную машину, что она возникает в исключительных ситуациях и так далее. Вопрос в следующем.

なお、疑問文は、音声上は通常イントネーションで区別される。можно で開始される疑問文は、実際の発話では можно にアクセントの焦点がある ИК-3 (Интонационная Конструкция)の構造だと考えられる。しかし、本稿ではこれ以上確認できないため判断を控える。

以上の観察から、можно が開始する文はほとんどが疑問文であり、疑問符がない場合でも疑問文として解釈できる発話を導く機能を持つことを確認できる。

3-2-3. можно の位置

前節でも述べたように、80 年文法は можно が疑問文を導く機能を持つと述べている。つまり、文頭に位置するはずである。¹⁸ 本節では、можно の文中における位置について確認する。

можно が文頭で用いられていることは、(18)~(33)から確認できる。接続詞 а や副詞 тогда, また Мама などの呼びかけ語に можно が後続する例もあるが、これらは命題に直接関与しない要素である。したがって、можно は文レベルでは文頭として位置づけることができよう。また、助詞的用法 2, つまり Nom + можно + Vfut という語順を取る例がほとんど存在しないという事実も、助詞的用法の можно が文頭に位置するという特徴を裏付けている。

位置に関連して検討すべきは、意味の切れ目である。(18)~(25)を見ると、можно と人称代名詞の間にカンマ(запятая)の記号¹⁹ が置かれる例がある。²⁰ ロシア語の正書法²¹ によ

¹⁸ ただし、発話末に можно が来てもいいという母語話者の意見もある。

¹⁹ まれにダッシュ(тире)や三点リーダー(...)も見られる。以後、「記号」はカンマ、ダッシュ、三点リーダーを意味する。

²⁰ (4)にも見られるように、母語話者もカンマの必要性について疑問を抱いている。

²¹ Валгина Н.С., Светлышева В.Н. Русский язык. Орфография и пунктуация. Правила и упражнения.

ると、カンマは挿入文や挿入句の前後に置かれ、通常、助詞の後には必要とされない。助詞的用法の **можно** の後ろにカンマを打つ場合、書き手は、**можно** と、それに後続する人称代名詞主格と動詞の呼応の間に意味の切れ目を見出していると言える。用例数が最も多い一人称での記号の使用数は表 5 の通りである。助詞的用法 1 では全体の約 40% の用例で記号が用いられている。

表 5 記号の使用数

	記号を含む用例数	全用例数
助詞の用法 1 "можно, Nom + V"	329 (43.29%)	760
副詞の用法 1 "можно, Dat + V"	0	323
副詞の用法 2 "Dat + можно, V"	1	102

助詞的用法 1 では、(41)のように、**можно** の後ろにカンマが置かれる。(42)のように、**Дашу** が置かれる例も少ないながらある。なお、副詞的用法 2 でカンマが置かれた唯一の例の(43)は、呼びかけ語の挿入を示すためのカンマであり、**можно** と動詞の意味上の切れ目
を示しているわけではない。副詞的用法の **можно** は述部の主要成分であるため、**можно**
と動詞はカンマによって意味的に分断しえないと言える。

- (41) Можно, я схожу в туалет? (18)再掲
- (42) Тогда можно — я ему сейчас скажу, а?
- (43) Мне можно, барин, сходить к ним на похороны-то?

以上の観察から、助詞的用法で **можно** は文頭で記号によって後続する発話に対する意味的な切れ目を明示できるのに対し、副詞的用法では意味の切れ目はないと言える。

4. можно の助詞的用法の通時的発達

前節では、コーパスを用いて **можно** の助詞的用法の統語的環境を記述した。その結果、一人称との共起が圧倒的に多いことが分かり、また、80 年文法の注釈の通り、文頭に位置して疑問文を開始することが確認された。本節では、最も使用数の多い一人称について、その通時的な使用数の変化を根拠に、助詞的用法が新しく出現した形式であり、かつ現在

Учебное пособие. М., 2000. С. 414.
[<http://www.hi-edu.ru/e-books/xbook051/01/index.html?part-007.htm>] (2019 年 9 月 26 日閲覧).

も構造的に変化しつつある形式であることを示す。

助詞的用法 1 の一人称単数での疑問文は、圧倒的な使用頻度を示している。しかし、同時に副詞的用法による許可を尋ねる疑問文も可能である。分析の結果、можно я ~? は 760 件 (表 1)、можно мне ~? は 323 件 (表 3) 確認された。この 2 つの形式は、許可求めという機能を担う点で共存している。

しかし、この 2 形式の使用には通時的な違いが見られる。この 2 形式の年代別の使用数及び使用割合の変化は、図 1 に示されている。²²

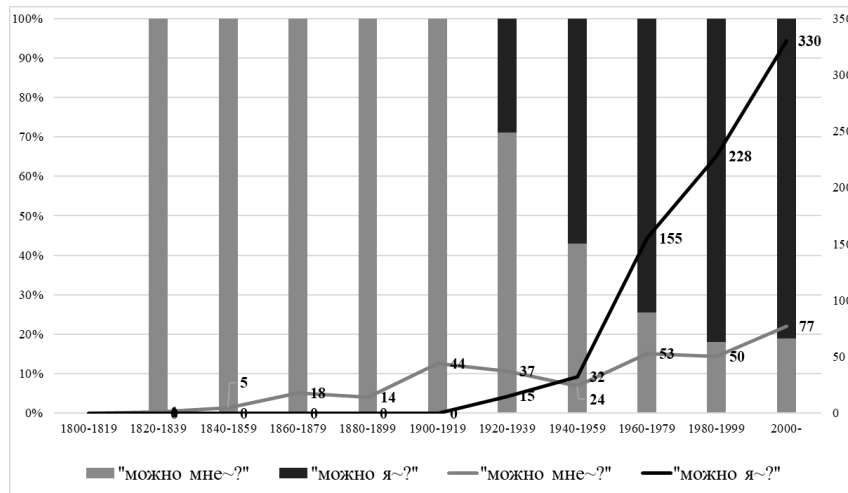


図 1 можно мне ~? 及び можно я ~? の使用数と使用割合の変化

使用数について、副詞的用法 можно мне ~? は 19 世紀後半から出現が確認され、以降一定の使用数が認められる。それに対し、助詞的用法 можно я ~? は 1910 年代までは 1 例も観察されず、1920 年代以降出現が確認され、1940 年代以降使用数が急激に増加している。使用割合について、можно мне ~? と можно я ~? は 1920 年代から競合し始め、次第に можно я ~? の使用割合が上がってきたことが分かる。つまり、副詞的用法 можно мне ~? は以前から使われていたが、助詞的用法 можно я ~? は後から出現し、特に 60 年第以降急激に増加し、前者に取って代わりつつある形式だと言える。

²² 使用数は線グラフで、使用割合は棒グラフで示されている。

また、助詞的用法 **можно** я~? の使用自体にも通時的な違いが見られる。助詞的用法は、3-2-3 で見た通り、記号とともに用いられることがある。この形式が記号とともに用いられるのは 329 件、記号がない形式は 431 件であった（表 5）。助詞的用法における記号の有無とその割合の変化は、図 2 に示されている。²³ この図からは、記号を伴う形式（以後「記号あり」と記号を伴わない形式（以後「記号なし」と、ともに増加していることが分かる。しかし、その割合を見ると、時代を経るにつれ、記号ありは減少するのに対して記号なしは増加している。

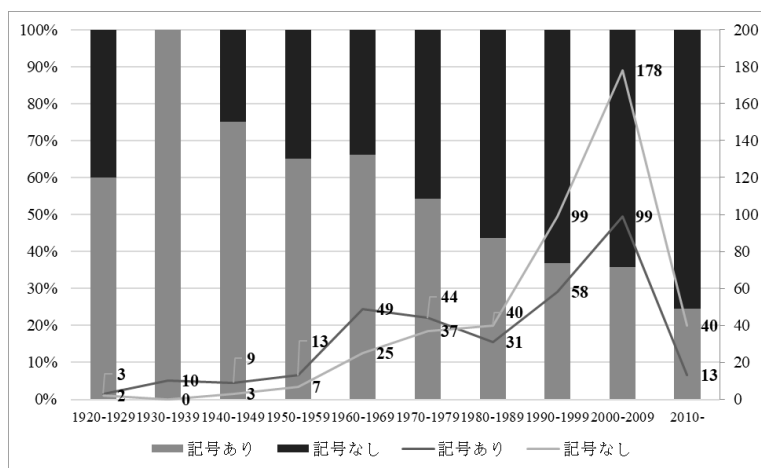


図 2 助詞的用法における記号の有無及びその割合の変化

つまり、図 1 及び図 2 から、許可求め疑問文として助詞的用法が増加傾向にあるなかで、記号ありより記号なしが増加しつつあると言える。

можно の通時的な発達について、図 1 及び図 2 から、次のようにまとめることができる。もともと **можно** は述語として様々なタイプの文で用いられていた。1920 年代頃から、助詞のような統語的振る舞いをして、つまり、本稿で観察してきたような疑問文をつくる助詞的用法が出現し始めた。この用法は 40 年代以降急激に増加し、副詞的用法に取って変わりつつある。なお、その発生当初から記号を伴う形式と伴わない形式が共存していたが、記号なしの形式が 80 年代から増加しつつある。

можно の副詞的用法と助詞的用法は内部構造が異なると考えられる。副詞的用法では、**можно** と動詞はともに述部を構成する要素であり、その 2 つの要素間に記号を置くことはできない（表 5）。つまり、この 2 つは統語的・意味的に分けることができない。また助詞的用法でも、記号の有無で内部構造が異なる。助詞的用法の記号ありでは、**можно** は後続

²³ 記号の有無の数は線グラフで、その割合は棒グラフで示されている。

する文と統語的・意味的に分けられ、ある種独立した要素として認識される。一方記号なしでは、можно は後続する文と統語的・意味的に分けられておらず、モダリティ的要素としてより密接に文に組み込まれる。これは、次のように簡略化して示すことができる。

- | | | |
|------|---------------|--------------------|
| (44) | a. 副詞的用法 | [можно + Vinf] |
| | b. 助詞的用法 記号あり | [можно] [S + Vfut] |
| | c. 助詞的用法 記号なし | [можно + S + Vfut] |

記号はあくまで表記の問題であり、音声的にはポーズやイントネーションで表される。記号の有無や音声的な区別という言語産出におけるわずかな違いは何らかの意味的な違いを反映するものと予想される。本稿では記号ありと記号なし、また音声の詳細な分析を行わなかったため、これ以上言えない。しかし、記号ありから記号なしへの使用数の増加は、можно の構造的な変化を裏付けていると考えられる。

5. まとめ

本稿は、通常副詞と分類される можно が助詞のように振る舞う現象に焦点を当て、コーパスを用いてその統語的環境を明らかにし、助詞的用法の можно が近年出現し、かつ現在も発達過程にある形式であることを示した。助詞的用法は一人称単数との共起が圧倒的に多く、文頭に位置して疑問文をつくるはたらきをする。一人称について、副詞的用法 можно мне ~? と助詞的用法 можно я ~? は共存しているが、助詞的用法が許可の質問としてより頻繁に用いられていることを確認した。また、この2つの形式の使用の通時的変化から、助詞的用法は40年代以降増加傾向にある形式であり、かつ副詞的用法に取ってかわりつつあることが分かった。また、記号の有無の通時的変化から推察するに、助詞的用法では現在も構造的な変化が進行していると考えられる。

今後の課題としては、助詞的用法は話し言葉によく観察されるため、話し言葉に限定したコーパスを利用する必要があることが指摘できる。また、副詞的用法と助詞的用法の語用論的な違いや можно そのものの意味・機能の変化についても検討する必要があるだろう。

A Corpus-Based Comparison of “Можно” Used as a Particle and as a Predicate Adverb

HIGASHIDE Tomo

In Russian, “можно” is generally categorized as a predicate adverb and has the modal meaning of ability and permission. Grammatically, this element co-occurs with a verb in the infinitive, and when expressing the semantical subject of a verb, it occurs in dative. However, in sentences requesting permission used in conversation, “можно” acts as a particle. In this case, it appears together with a subject in the nominative and a verb that agrees with it. In this paper, we analyzed the syntax of this phenomenon using corpus data, and showed that this particle usage of “можно” is still undergoing change.

As a result of the analysis, first of all, we pointed out some general tendencies of predicate-adverbial usage and particle usage. While “можно” as a predicate adverb appears in several syntactic constructions with variations in word order, person, and type of sentence, the form “можно мне ~?”, which is a yes-no interrogative sentence in first person singular, is significantly more common than others. Another form is “можно я ~?”, which is grammatically similar. However, a comparison of these first person singular patterns reveals that when requesting permission, the particle usage “можно я ~?” is used significantly more often than the predicate-adverbial usage “можно мне ~?”. We can conclude that although “можно” can display syntactical variation, when used as a particle it performs a specialized role in yes-no interrogative sentences in the first person.

Secondly, we analyzed syntactic features of the particle usage of “можно”. As a particle, “можно” can theoretically occur with all persons, numbers, genders, as well as both affirmation and negation. However, it is used overwhelmingly more often in affirmative questions in the first person singular. Also, we found that it stands at the head of the sentence and opens the question. While there are two types of requests for permission – “можно мне ~?” and “можно я ~?” – the diachronic change of their respective frequencies shows that the particle usage has increased in last decades. Moreover, in the particle usage, the patterns of separating “можно” by a comma (or not) display a diachronic variation that suggests the structural change of this modal word is still ongoing.